

授業概要

本科目では日本古典文学の概要について講義する。5～6世紀ごろ古代中国から漢字文化が輸入されることと密接に関連しつつ漢文→漢字仮名交じり文という文体が生まれ、それと連動して独自の日本文学の世界が築かれてきた。その成り立ちから近代前までをその時代時代の代表的な作品の代表的な場面を読みつつ講義する予定である。日本古典文学の代表的な概念や特徴を常に考えつつ進めることとしたい。なお日本文学には韻文・散文とあるが、本講義は散文（物語）を中心に行う予定である。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション。受講の注意。受講生の基礎知識の確認。
第 2 回	神の文学の世界—『古事記』『日本書紀』と帝の位置づけ
第 3 回	万葉集と「令和」という年号—古代の詩とさらにその起源にむかって
第 4 回	「物語の出で来はじめの祖(おや)」—『竹取物語』と難題婿の話型
第 5 回	物語と和歌—『伊勢物語』/増幅する物語
第 6 回	『源氏物語』(1)—物語文学の最高峰の成り立ち・作者・作品概要
第 7 回	『源氏物語』(2)—作品の意義・後代への影響(享受)
第 8 回	『紫式部日記』と「光る君」—女流日記文学が書き残したもの/女性たちの生き方
第 9 回	『とりかえばや物語』が語りかける性別の問題
第 10 回	御伽草子(1)—『花鳥風月』に出てくる巫女の霊性
第 11 回	御伽草子(2)—『浦島太郎』の本当の姿を探る
第 12 回	『雨月物語』(1)—「吉備津の釜」の怪異表現と妖気
第 13 回	『雨月物語』(2)—「青頭巾」の論破力と受け入れる心
第 14 回	『雨月物語』(3)—「白峯」の憎しみと赦し
第 15 回	全体のまとめ(本居宣長の考える古典文学論とともに)
第 16 回	期末試験

到達目標

- ① 古典文学の概略を歴史の流れに沿って理解することができる。
- ② 各時代の代表的な作品について概略を理解することができる。

履修上の注意

- ・ただ出席するのではなくメモをとる積極的な姿勢をもつことを要求したい。
- ・卒業論文で古典文学を考えている人は履修することが望ましい。

予習・復習

予習：毎回授業の最後に次の授業の参考文献/資料を指示するので、それについて目を通しておくこと。
復習：授業後に残った疑問点は資料を読み毎回持ち越さず解決しておくこと。

評価方法

期末試験(70%)・受講態度(30%)で総合的に評価する。

テキスト

特に学生個人であらかじめ用意する必要はない。毎回授業資料を配布・提示する予定である。毎回の授業資料に興味を持ったら、情報メディアセンターで借りて読んでもらいたい。